



Title	パッケージとしての展覧会 : 「美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」 からの事例
Author(s)	今井, 美樹
Citation	デザイン理論. 2008, 53, p. 116-117
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53416">https://doi.org/10.18910/53416</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## パッケージとしての展覧会

— 「美術館に行こう！ — ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方 —」からの事例  
今井美樹／大阪工業大学

「美術館に行こう！」展は、企画会社が地方美術館向けに企画運営する展覧会である。特別協力を仰ぐライセンサーからブルーナ作品の長期貸出の許可を得て、10年間の巡回を目指した、息の長い展覧会を期待している。

展覧会は、「見てみよう」（主催館の所蔵品）、「考えてみよう」（ブルーナ作品）、「作ってみよう」（ワークショップ）の三部構成からなる。中でも、絵本に沿って学芸員が所蔵品を選出し、独自の解説によって紹介する展示「見てみよう」と、展覧会図録に付属のワークシートの他に、主催館が自主イベントを計画するなどして、巡回先での主体性が盛り込める「作ってみよう」に特徴がある。

都心で開催される大量動員を見込んだマスメディア主催の大型企画が目立つ昨今の展覧会事情にあって、本展は、地方における小規模な展覧会であっても、通常は常設展示とし

て陳列されている所蔵品をいまいちど読み解き、モダン・アートの初心者に作品を丁寧に紹介し、老若男女が楽しめる施設の活性化を念頭においた企画の工夫を試みている。

本発表では、企画会社が運営する「パッケージとしての展覧会」でありながら、地元根付いた美術館活動を援助する展覧会の一例を、企画提案したコンテンツと展覧会図録によって紹介する。

### 企画提案

企画会社には、ブルーナ作品を中心にしながらも、巡回先の施設や規模に合わせて融通できる企画案を提案した。予算の少ない地方美術館への売り込みには、各館所蔵のコレクションを用いることで作品借用料・輸送料を押さえ、ワークショップによって自主事業を促す「緩さ」を加味した構成を提示している。



Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2008 www.miffy.com

### ◎「見てみよう」－所蔵品の意義と解釈－

絵本『nijntje in het museum』（Dick Bruna, 1997）は、ナインチェ（ミッフィー／うさこちゃん）が両親と出かけた美術館で7つのモダン・アートを鑑賞するストーリー。12枚のイラストレーションと4行の短いテキストによって多くのものごとをイメージさせるこの絵本は、現代美術の解題と捉えることもできる。ここでは、各巡回先の学芸員が、イラストレーションやテキストに適応する所蔵品を選び、ユニークな解釈によって、コレクションの魅力や収集の意義を判りやすく説きながら展示をおこなう。

### ◎「考えてみよう」－展覧会へのいざない－

現在は絵本作家として知られているブルーナも、若い頃はグラフィックデザイナーとして活躍しており、特にペーパーバックの表紙においては、さまざまな手法が試みられ、今日のブルーナ・スタイル確立の過程が垣間みられる。ここでは、ブルーナ作品（絵本・シルクスクリーン・ポスター・ペーパーバックの表紙など）を展示し、幅広い層の来場者が、親しみのあるブルーナ作品を入口に、作品や制作方法について考える機会となることを狙いとしている。

### ◎「作ってみよう」－ワークショップが果たす役割－

昨今の美術館は、単なる作品鑑賞の場だけでなく、ショップやカフェ・レストランなどの併設施設によって付加価値を高めたり、講演会やワークショップといった来館者参加型のイベントが要望されたりするなど、さまざまな機能が求められている。ここでは、来館者が参加できる身近な制作体験を展開し、施設の機能を十分に生かした、巡回館独自の活動が計画されるよう、ワークシートの他、協賛団体からの貸与品なども提供している。

### 展覧会ロゴ

企画のアイデンティティを形成しながら、全国巡回のパッケージとしての展覧会が視覚統一されるように、展覧会ロゴを制作した。



### 図録の編集とデザイン

絵本に倣った版形で手頃な価格の編集とデザインを提案。各巡回先で変わる展示作品や、ワークシートの別売りを前提に、図録は3分冊とし、各冊子のデザイン統一をおこなった。

### ◎収蔵品の自由な解釈

収集方針など収蔵品の背景を含めた作品紹介を期待して、キーワード、作品、解説が一覧できる紙面を提供した。



### ◎ブルーナ作品の分析

ブルーナ作品のデザイン手法を分析することで、もの作りの楽しさと併せて、技法・表現が理解できる編集とした。



### ◎眼と頭と手の検証

ブルーナの手法を使った4種類のワークシートの付録。自主事業で参考にしてもらえる手軽なキットを考案した。



本発表に際し、株式会社キュレイターズならびにディック・ブルーナ・ジャパンのご協力を賜りましたことを記してお礼申し上げます。